



令和8年6月16日

報道関係者各位

国立大学法人北海道国立大学機構
帯広畜産大学

**北海道で大発生するヤスデは新種だった！
— 『キタフジヤスデ』 を新種として記載 —**

【リリース概要】

帯広畜産大学の開澤菜月（大学院博士後期課程 畜産科学専攻 環境生態学コース令和8年3月修了）、山内健生准教授（環境農学研究部門）および広島大学の乗原良輔（統合生命科学研究科）の研究グループは、2026年6月5日出版の学術誌において、北海道で大発生するフジヤスデ属のヤスデ（図1）を新種として記載しました。これまで種名が明らかでなかった本種に名前がついたことで、今後、本種の分布、生態、発生要因、そして人の生活環境との関わりについて、より詳しい研究が進むことが期待されます。

【解説】

ヤスデ類（ヤスデ綱）は、節足動物門の多足亜門（※1）に分類され、世界では約11,000種、日本では約300種が知られています。多くは土壌表面や土壌中の落葉層、倒木の下に生息し、植物遺体の分解者として生態系の中で重要な役割を担っています。一方で、住宅地や田畑などの人為的な環境に生息し、時に大発生したり、家屋内へ侵入したりすることで、人の生活環境に影響を及ぼす種も存在します。

フジヤスデ属（*Anaulaciulus*属）は、ヒメヤスデ目ヒメヤスデ科に属し、世界で約50種、日本では22種が知られていました。本属は、日本の本州、四国、九州、琉球諸島および小笠原諸島のほか、極東ロシア、中国、台湾、韓国、マレーシア北部、パキスタン、インド、ネパールから記録されていましたが、これまで北海道からの記録はありませんでした。

しかし、本研究グループが北海道各地で野外調査を行ったところ、フジヤスデ属のヤスデが、道内各地に生息することが確認されました。また、一部地域では大発生や家屋内への侵入も確認されました。そこで、採集された個体について詳細な形態学的研究を行ったところ、雄の生殖肢（※2）のopisthomerite先端部の形態が既知種（※3）とは異なる特徴を示すことが明らかになりました。さらに、ミトコンドリアDNAのCOI領域（※4）の塩基配列から、このヤスデは形態的に最も類似する種とは別種であることが示唆されました。

これらの結果から、本研究グループは、本種に「*Anaulaciulus kita*（アナウラキウルス・キタ）」という学名（※5）を与え、新種として記載しました。種小名の「*kita*（キタ）」は、本種がこれまで北海道のみで見つかっていることから、日本語の「北」にちなんでいます。また、本種の和名として「キタフジヤスデ」を新たに提唱しました。

本種は、北海道内の4市1町（釧路市、上士幌町、帯広市、北広島市、札幌市）において確認され、3月から11月にかけて採集されました。一方で、本種の大発生および屋内侵入は、9月下旬から10月にかけて観察されました。

本研究により、北海道で大発生するフジヤスデ属のヤスデが未記載種（※6）であることが示され、新たに学名と和名が与えられました。今後、本種の分布、生態、発生要因、人の生活環境との関わりについて、より詳しい研究が進むことが期待されます。

本研究は、JSPS科学研究費補助金（科研費）JP23KJ0075の助成を受けて実施されました。本論文は、日本蜘蛛学会の学会誌『Acta Arachnologica』に、令和8年6月5日に掲載されました。

【用語解説】

※1. 多足亜門：節足動物門に属する亜門の1つ。「多足類」と呼ばれることもある。ムカデ綱、ヤスデ綱、コムカデ綱およびエダヒゲムシ綱で構成される。

※2. 生殖肢：脚が特殊化してできた器官で、雄が精包を雌の生殖器へ運ぶ際に使われる。多くのヤスデ類では、生殖肢の形態的特徴が、属や種を識別するための重要な分類形質となる。

※3. 既知種：すでに学名が与えられ、学術的に知られている種。

※4. ミトコンドリアDNAのCOI領域：近縁種間の系統関係を調べる際によく用いられる遺伝子領域。細胞内に多数のコピーがあるため、少量の試料からでも解析しやすく、変異の蓄積速度と保存性のバランスが近縁種の比較に向いている。

※5. 学名：生物の分類群（種など）につけられる世界共通の名前。種の学名は属名と種小名のセットで表される。

※6. 未記載種：学名が与えられていない種。



図1. キタフジヤスデ *Anaulaciulus kita* Hirakizawa, Kuwahara & Yamauchi, 2026. (左) 全体像；(右) 生殖肢。

【発表雑誌】

Acta Arachnologica, Vol. 75 No. 1: 119–128

DOI: <https://doi.org/10.2476/asjaa.75.119>

【論文名】

A new species of the genus *Anaulaciulus* (Diplopoda: Julida: Julidae) from Hokkaido, Japan, with notes on its outbreaks

【著者】

Natsuki Hirakizawa (開澤菜月) : 帯広畜産大学大学院 博士後期課程 畜産科学専攻 環境生態学コース修了 (現在は富山県在住)

Ryosuke Kuwahara (榎原良輔) : 広島大学 統合生命科学研究科 教育研究補助職員

Takeo Yamauchi (山内健生) : 帯広畜産大学 環境農学研究部門 准教授

【連絡先】

<研究内容に関する問い合わせ>

帯広畜産大学環境農学研究部門

准教授 山内 健生

TEL: 0155-49-5506

E-mail: tyamauchi@obihiro.ac.jp

<取材に関するお問い合わせ>

帯広畜産大学 基金・広報係 担当: 松元

TEL: 0155-49-5219

メール: kouhou@obihiro.ac.jp